研究テーマ　●中国の書物の歴史についての研究

法文学部・人文学科・多元地域文化コース　　教授　　高津　孝

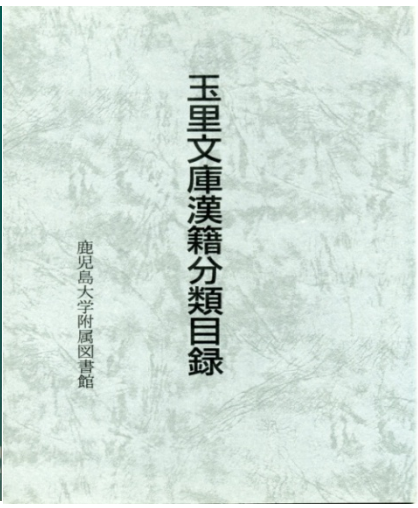
研究の背景および目的

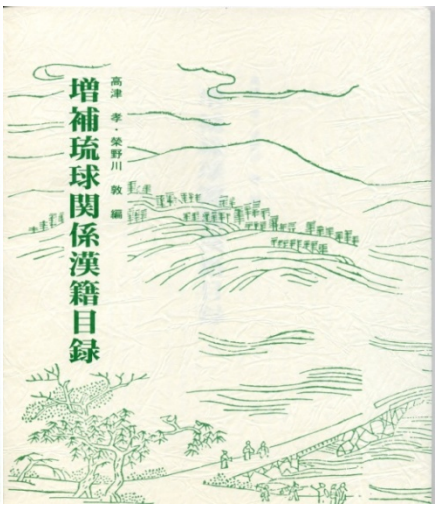
印刷術の発明は、８世紀の中国にさかのぼります。それ以降、世界中に、紙の技術とともに印刷文化は広がっていきました。
こうした中国の書物（漢籍）がどのように日本や琉球に伝来し、受容されていったのかについて研究を行っています。

■おもな研究内容

1）中国の書物の歴史について解説した簡単な書物を日本語に翻訳しています。
2）玉里島津家に伝来した漢籍や琉球に伝来した漢籍について、書誌学的調査を行い、目録を出版しています。







高津孝訳『中国の書物と印刷』日本エディタースクール出版部　1999年12月
高津孝編『玉里文庫漢籍分類目録』鹿児島大学附属図書館　1994年3月
高津孝・榮野川敦編『増補琉球関係漢籍目録』鹿児島大学法文学部　2005年3月

期待される効果・応用分野

中国の書籍（漢籍）の流通、拡散、所蔵、受容を研究することにより、中国の文化がどのように日本や世界各地に伝播し、受容されていったのかが明らかになります。
この研究は、過去の日本人や世界の人々が異文化をどのように受け入れて行ったかが分かる、異文化接触の歴史を紐解くことにもつながります。

■共同研究・特許などアピールポイント

●未整理の漢籍についての書誌的調査、目録作成に協力することが可能です。
●書籍文化の様々な面について、薩摩、琉球をフィールドとした調査結果に基づいて解説を行えます。

コーディネーターから一言

最古の印刷物である中国の書籍が、日本や琉球に伝来し、受容されたかの経緯を研究。
漢籍についての調査協力や、薩摩・琉球の書籍における異文化接触の歴史等の解説、講演等が可能です。

研究分野	中国文学、宋代文学、中国書誌学
キーワード	中国文学批評、印刷術、書誌学、書物の歴史